

剣陵会総会

・修了生を祝う会

3月27日、修了生5人を含む21人の参加のもと、桜山キャンパス本部棟4階



総会後の集合写真:前列左から5人目 杉本和夫剣陵会会長、6人目今川隆(修了生)、7人目望月卓馬(修了生)、8人目広瀬聡(修了生)、9人目大久保直樹(修了生)、後列右から1人目秋山直美(修了生)

於本部棟大ホール 写真濱島

大ホールにて剣陵会総会を行い、その後場所を同キャンパス内「サクラサイドテラス」に移し、懇親会並びに修了生を祝う会を行いました。



お忙しい中参加頂いた中山研究科長(写真)は来賓挨拶で、「24年度経済学研究科前期課程入試は、志願者多く定員40名の合格者を出せたが、10名の入学辞退が出た。これは原因を探らなければいけない。再来年度山の畑キャンパスの経済学部棟建て替えが着工する。データサイエンス学部も入るので、今の建物より大きくなる」と状況を説明されました。

記念講演 16期堀尾博樹氏(写真)
「社会的企業の制度選択
—多様性・共生社会への対応—」



堀尾氏は剣陵会新希望学研究会に所属し、22年出版の『ボジティブエイジングへの展望』では、表題の論文を執筆しました。

シニアの活躍の場として「サードセクター」が注目されています。ファーストセクター(行政)、セカンドセクター(企業)、そしてサードセクター(社会福祉法人)に関わった経験を生かして、社会的企業としての非営利法人の税制に焦点を当てたとき、どのような制度選択が有利か、という視点で話しました。NPO法人の法人税申告用損益計算書を使った説明は、制度選択が税負担軽減に繋がると

経済学部棟建て替え特集

山の畑キャンパスは人文社会科学学部棟(一号館)が97年に完成し、学生会館が20年にリニューアルする中で、経済学部棟はひとり取り残されていました。昨年度データサイエンス学部が新設されましたが、経済学部棟に同居しています。

前述の中山研究科長の紹介を受け、市大のキャンパス再編整備プロジェクトを閲覧しました。第一期(配置図)として、経済学研究科・経済学部及びデータサイエンス研究科・データサイエンス学部の研究施設、教室、図書館、食堂などが整備(5階建て)されるようです。整備基本



構想設計を委託する業者はコンペにより、山下設計・FULL POWER STUDIO共同事業体になり、27年度供用開始のようです。公共建築が建築資材の値上がりや人手不足などで入札不調が伝えられています。順調に推移することを願います。

社会人大学院創設10周年記念植樹(写真)は新棟と3号館の間の緑地帯に植えられています。00年3月、当時の研究科

執行部の、塩見治人研究科長(左から



記念植樹贈呈当時、研究科長室に飾られていた写真。当局がデータ化して提供された。

藤義幸事務局長(左端)、杉浦昌樹氏(右端)の皆さんにより植樹されました。

植樹の現在(写真)

直径30センチメートル、高さ6メートル程度の大木。今までリフォーム・剪定の困難を乗り越えてきました。配置図では新棟に辛うじて掛かっていますが、資材置場や次期整備計画でどうなるかわかりません。大学側とも連絡を取り



記念植樹の現在
24.6.1 撮影濱島



記念植樹石碑

ながら剣陵会の貢献と意思を伝えて来た象徴として、守っていききたいものです。皆さまのお考えを事務局までお寄せ下さい。

注) 1期生=1991年3月修了生、文中では1991年を91年と表示する。

会員の活躍

愛知工業大学教授

羽田 裕 氏(写真)



私は、名古屋市立大学人文社会学部現代社会学科を1期生として卒業、そして経済学研究科博士前期、後期課程へと進学、博士(経済学)を取得し、現在、愛知工業大学経営学部兼ゼロカーボン推進室にて研究者としての道を歩んでいます。

私の研究者人生を通じて最も大切だと感じていることは、「出会いとつながり」です。

まず研究者として育てて頂きました大学院時代からの恩師である塩見治人先生との出会いです。研究者としてのすべてが、大学院時代からこれまでの塩見先生の教えがベースになっています。この教えを今後も大切にしていけるとともに、次の世代へとバトンをつなげていくことが私の使命の一つだと考えています。

次に、私が研究者としての道を歩みきつかけを作った頂いた学部時代の恩師である安川悦子先生との出会いです。研究者を目指すのであれば、「学問的に確立されている経済学の道を進みなさい」ということで塩見先生を「紹介頂きました」。これが「つながり」だと思います。そして両恩師とは、現在、「地域ネットワーク研究会」にて一緒に過ごさせて頂いており、かわいいう？弟子として未だにご指導頂けるといいう縁を頂いており、ここにもつ

ながりが存在しています。今まさに研究会ではネットワークという視点からつながりを分析しており、私の研究者人生は「出会いとつながり」の一言に尽きると感じる今日この頃です。

現在、経営学部の教員としてマーケティング、経営戦略を担当しています。またゼロカーボン推進室では、地域社会でのカーボンニュートラルの実現に向けて大学として使命を果たしていくための体制づくり、取り組み等を企画し、展開しています。今後、ますます地域社会を取り巻く環境は厳しいものとなり、この問題に立ち向かっていくにはつながりがすごく重要であると考えています。この剣陵会ニュースをきっかけに新たな出会い、そしてつながりがうまれることを期待しつつ、文章を締めたいと思います。

経済学研究科博士後期課程

33期 小島千草 氏(写真)



決めたのは、職場の大学で10年ほど中国との連携業務に携わったことがきっかけです。

中国の大学は産学官連携がとても活発に行われています。国家重点大学の附属のサイエンスパーク内には、教員や学生が起業した数百家のスタートアップがインキュベーターとされ、大学周辺にインキュベーターを終えた大学発スタートアップの産業集積地帯が形成されて、地域の経済発展を牽引しています。

成長した企業は、大学の近隣に本社ビルを建て、キャンパスと企業の境界が分

からなくらい大学と融合しています。中国の経済産業の発展を支えるパワーの源は、大学にあるのではないかと実感いたしました。

そこで、日本の大学も国や地域を元気にするために、産学官連携を通じてもつと役立てられるのではないかと思い、博士前期課程では産学官連携を促進する要因の研究をテーマに選びました。

現在は博士後期課程に在籍しながら、引き続き日本の経済産業発展の鍵となる、共同研究、特許創出、スタートアップなど、産学官連携活動を活発にする方策の研究を試みています。

地域ネットワーク研究会

「ジカラ村」を見学して

大都市の楽園(パラダイス)

15期 杉本和夫氏

ゴジカラ村の名前と存在は、日本産業カウンセラー協会の会員が老人のための「傾聴ボランティア」(老人からお話をお聴きする)に何度も訪問しており、以前から知っていた。

私は今回、剣陵会「地域ネットワーク研究会」の視察で初めて訪問した。介護施設という暗いイメージを持っていたが、都会の中のアアシス、別世界(地上のパラダイス)にきたような感じがした。

そう感じた理由は

①都会に隣接した森の中、木が多く数々の花が咲き誇っている。この時期はアジサイ。

②村の中での老若男女の元気な声や笑い声。何か楽しい行事が行なわれているよ

うな雰囲気。



「ゴジカラ村」林の中で
前列左より塩見先生、加納先生、杉本、宮崎先生、村瀬(ゴジカラ村)、後列左より羽田、堀尾、岡田、中山
24.6.14 写

③そこにいる人たちがみな親切で、まるで友達や家族のような親しさ。私は集合場所を間違えたが、親切にも、そのなかにある幼稚園の園児の母親に引率していただき、集合場所にたどりついた。

④こんな「人に優しい」世界が身近にあるのだという驚き。そこで出会う人は、誰にとってもここが居場所、私のような初訪問者でも違和感がない。全員が笑顔でこちらも元気になる。

久しぶりに人間のやさしさを感じた。また来ようと思う。

編集後記 記念植樹は周りの大木の緑と同化し、石碑は雑草に囲まれています。「社会人」に込められた当時の熱い思いを馳せ次への一歩を踏み出したい。

投稿募集中
事務局 kiki75456869@yahoo.co.jp宛お送りください。
(先愛子)